

2016.1.20 19:10

モダン&シンプルな「かみだな」 モチーフは伊勢神宮、現代の住空間にマッチ

近年の婚活やパワースポットブームで神社めぐりが流行る中、神棚をまつという習慣が見直されている。しかし、問題はいただいたお札を現代の住空間の中でどうまつか。そんな需要に応えるモダンでシンプルな新しい「神棚」が注目されている。

東日本大震災の被災地、福島県いわき市の木工職人集団「もこのこ」が制作した「かみだな」は、縦28センチ×横12センチと超ミニマム。立体模型化した伊勢神宮に御札を祀るという従来の神棚の思想は変えず、伊勢神宮をモチーフ化し、ヒノキに彫り付けた。天井に近い壁や高い棚の上など小さなスペースでも、インテリアから浮くことなく祀ることができるスタイリッシュな神棚。デザインは、建築・インテリア・プロダクトデザインなどを手がけるmizmiz design代表で一級建築士の水野 憲司さんが手がけた。

「かみだな『しろ』」はコチラ (産経netShop)

「かみだな『むく』」はコチラ (産経netShop)

「かみだな『うるし』」はコチラ (産経netShop)

この「かみだな」を作った「もこのこ」は、2010年に福島県いわき市の正木屋材木店を中心に同市内の木工業者らが集い、木工技術の継承、共有、情報発信を目的として活動を始めた。その翌年の3月11日、東日本大震災で「もこのこ」のメンバーの生活も一変。同材木店の大平宏之社長は「とにかく前を向くしかない、自分たちができることからやるしかない」と、仮設住宅で暮らす人々にちゃぶ台を作って届ける活動をするうちに、耳にしたのが「仮設には神棚を置く場所がない」という声。これをきっかけに小さなスペースでも置ける神棚作りに取り組んだという。

「もこのこ」の神棚は、「しろ」「むく」「うるし」の3種類。日本では神聖な色とされる白を取り入れた「かみだな『しろ』」(2万9,800円)は、ヒノキの本体に白のメラミン化粧板を貼ることでスタイリッシュなフォルムを実現。「かみだな『むく』」(2万7,800円)は、無垢のヒノキの質感を活かした形状で、木肌の美しさ、手触りを楽しめる。また、ヒノキの本体に漆塗りを施した「かみだな『うるし』」(15万円、税込)には、蒔絵装飾を施した。格調高い紺色と、古来より魔除けとして用いられてきた朱赤の2タイプから選べる。

「かみだな『しろ』」はコチラ (産経netShop)

「かみだな『むく』」はコチラ (産経netShop)

「かみだな『うるし』」はコチラ (産経netShop)



日本では神聖な色とされる白を取り入れた「かみだな『しろ』」